

「全銀座会 G2020 (GINZA2020)」は、2020 年東京五輪大会の開催決定を受け、全銀座会内の各構成組織や各委員会に関わる横断的な組織として発足した全銀座会の一委員会です。2020 年東京五輪大会の開催に向けて、銀座に対する外部からの様々な提案や情報提供の窓口となるとともに、全銀座会及び内部組織への情報発信、情報共有、アレンジなどを行っています。

## 「文化プログラム」の立案に向けて、レクチャーシリーズがはじまりました！

### ■銀座の「文化プログラム」立案に向けて

スポーツと文化の祭典であるオリンピック・パラリンピックを契機と捉え、G2020 では、銀座の文化醸成をはかりたいと考えます。そこで、新しい発想で銀座の文化を生み出していくために、プロジェクト「レクチャーシリーズ」を始めました。このプロジェクトでは、先駆的な取り組みをしているアーティストやプロデューサーとのネットワークを構築し、集中的に話を聴いて議論します。そして、銀座に眠る価値を再発見し、銀座に求められるプログラムを考えていきます。

7月5日、G.Itoya のビジネスラウンジにて、レクチャーシリーズの第1回目が開催されました。講師は吉本光宏さん(ニッセイ基礎研究所 研究理事)。「文化プログラム ～ロンドンの事例と東京/日本の取り組み～」をテーマに、2012年のロンドン大会で行われた文化プログラムの役割や、社会に与えたインパクト、そしてそれがどのようなレガシーとなったのかなど、具体的な事例をもとに話されました。

### ■ロンドンの事例

2008年北京大会の閉会式翌日に、ロンドンの文化プログラムはキックオフし、そこから4年間実施され、フィナーレのフェスティバルを開会式の一ヶ月前から12週間行いました。イベント総数は約12万件にもものぼりました。「英国の誰もがロンドン2012に参加するチャンスを提供し、あらゆる文化に共通する創造性を、とりわけ若者たちに喚起させること」をテーマにかかげ、文化を通じて国全体のオリンピックへの参加意識の醸成をはかったのです。フェスティバルでは「Once in a Lifetime (人生で一度きり)」というスローガンがかかげられました。

ロンドン大会は、メディアの活用成功したと吉本さんは語ります。開会式の約一ヶ月前から、続々と主催都市に集まるメディアの多くは、競技場の準備が遅れている、警備が行き届いていないなど、ネガティブな情報を発信しがります。そこでロンドンでは、その期間に大規模な文化プログラムを行うことで、その様子を世界中のメディアに発信させました。また、オリンピック出場選手の出身国と同じ204の国からアーティ

ストを招くことで、世界中にロンドンの文化プログラムを発信するきっかけをつくりました。オリンピックは、自国ばかりではなく、参加国の文化発信の機会でもある、日本は特にアジアの国々との文化交流を検討すべきだと吉本さんは指摘します。

次に、なぜ文化プログラムに取り組むのか、ロンドンの成功例をふまえ、2つの理由が挙げられました。一つ目は、オリンピックという世界的な舞台に、一般市民がさまざまな形で参加できるからです。遠くて会場には行けない人や、スポーツに関心がない人もいます。そうした人々が各地域で文化プログラムを開催することで、英国全土で誰もがオリンピックに参加することができるのです。二つ目は、オリンピックだからこそ挑戦できることに市民や行政が一体となって取り組み、その成功がレガシーとして未来に残るからです。レガシーはイベント自体かもしれないし、人とのつながり、新しい場所かもしれません。どんな形でも、参加した人々の心に新しいことに挑戦するマインドとして残っていくことが重要ではないでしょうか。

### ■銀座が挑戦すること

さて、それでは銀座はどのような文化プログラムを考えたらよいのでしょうか。吉本さんは、まずは2021年以降の文化ビジョンを描くこと、将来どのような街でありたいのかを見据えて、イベントや事業を検討していくことが重要だと語ります。

具体的なプログラムとしては、日本全国で一斉に音楽を奏でることを吉本さんは提案します。ロンドンでは、英国中のベルを一斉に鳴らして開会を祝い、大いに盛り上がりました。驚いたことに、日本は4世帯に1台(=1千万台)のピアノがあるとされています。保有率は世界のトップレベルです。2020年東京大会の開会式のテーマソングに合わせて、全国の1千万台のピアノを一斉に奏で、日本中のあらゆる人々が文化に参加し、楽しんでいる様子を世界に発信してはどうでしょうか。銀座発祥の文化プログラムとして挑戦するなら、銀座のどこかに眠る1台のピアノから始めることもできます。

最後に吉本さんは、銀座が文化オリンピックをきっかけに、新しいものを生み出すような創造力のあふれる街になることを期待していると締めくくりました。

【発行】



全銀座会 G2020 事務局

TEL & FAX : 03-3561-0960 / E-MAIL : g2020@ginza.jp  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-6-1 三和ビル3F

●メール配信をご希望の方はお知らせください●このNewsLetterは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係の方々にお送りしています●本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます●